

「教育大綱」って何？

教育の目標や施策に関する根本的な方針として、市長が定めるものです。教育の具体的な計画は、「教育振興基本計画」で定めます。

「シンカ」って
どういうこと？

先人達が築き上げ、市民が誇りとしている「学都松本」をさらに磨き上げていくこと。

カタカナで「シンカ」と表記したことには、進化、深化、新化、伸化、真価など、一人ひとりが自分にとっての「シンカ」を見出し、学び続けていこうという思いが込められています。

松本市教育大綱 3つの視点

子どもを主人公とする学都松本では、特に大切にしていきたいと考えている学びの視点が3つあります。それは、「多様性」「創造性」「主体性」です。

3つの学びの視点には、「これからの社会を創る子どもたちに大切な価値として受け止めてほしい」という子どもへの期待と、「学びの環境を整え支えていく支援者の大人に常に心に留めてほしい」という大人への期待が込められています。



多様性

一人ひとりの個性や能力を尊重した
多様な学び



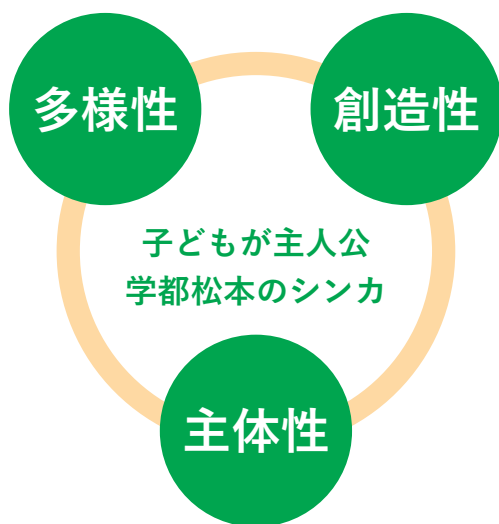
創造性

未来を切り拓き、新しい価値を生み出す
創造的な学び



主体性

自己や他者と対話しながら、社会に参画する
主体的な学び



重点的に取り組みます

重点① 子どもを誰一人取り残すことのないシステムの構築

- ・インクルーシブ教育の推進
- ・多様な学びを地域で支えていく仕組みづくりの推進 など

重点② 子どもにとって魅力的な学校環境の整備

- ・教職員研修の充実
- ・特色ある教育活動を支援するリーディングスクールの実現 など

重点③ 「遊び」や「体験」を大切にした学びの拡充

- ・さまざまな体験や他者と協働的に学ぶことができる場と機会の創出 など



子どもが主人公 学都松本のシンカ

●問い合わせ 総合戦略室（本庁舎 2階 ☎34-3274 📠35-2030）
教育政策課（大手事務所 4階 ☎33-3980 📠33-3934）



昨年から教育委員と協議を重ね、2月14日、松本市長が新たな教育大綱を策定しました。かけがえない子どもたちを真ん中に、その育ちや学びを支える大人も含め、すべての人が生涯を通じ学び続け、ともに成長し、自分らしく生きていくことを叶えていく「学都松本のシンカ」に挑んでいきます。

学都松本の主人公は **子ども** です

すべての子どもは、かけがえのない存在です。
すべての子どもは、自ら学び、成長していく力を持っています。
すべての子どもは、生まれ育った環境などに左右されることなく、
学びの機会が保障されなければなりません。

すべての子どもが、健やかに成長していく。
すべての子どもが、自由に自分を表現していく。
すべての子どもが、身近な大人の支援を受けることができる。
そして、すべての子どもの違いが、
「自分らしさ」として認められていく。
学都松本は、「**すべての子どもにやさしいまち**」をめざします。

学都松本 の シンカ

子どもは、さまざまな経験を通じて、日々成長していきます。
大人は、子どもの声に耳を傾け、その思いや気持ちを受け止め、
健やかな育ちと豊かな学びを支えていきます。
そして、子どもも大人も、生涯を通じて学び続け、ともに成長し、
自分らしく生きていくことを叶えていきます。

松本市は、

「**子どもを主人公とし、**

その学びを地域社会全体で支えること」を

学都松本の根本に据え、先人達が築き上げてきた礎のもと、

「**学都松本のシンカ**」に挑んでいきます。

教育大綱



市ホームページ

— も く じ —

子どもが主人公 学都松本のシンカ	2
まつもとフードシェアマーケット	6
新型コロナワクチン接種情報	8
妊婦健診は 「健診協力医療機関」で、 改めて基本的な感染対策を	9
第6波対応事業者特別支援金	10
非課税世帯臨時特別給付金	11
情報発信はデジタルを充実	12
ごみを減らしてつなぐ未来	13
狂犬病予防注射	14
マイナンバーカード臨時交付窓口、 灯油購入費等給付金、 休日窓口のご案内	15
情報チャンネル	16
4月の相談日	22
今月の一枚、まつもとの味	23
多事争論会	24



安曇小中学校

安曇地区では、小中学生は大切な地域の構成員です。地域にとって貢献できる活動を考え、地域参画を心掛けることで、子ども自身の自己有用感も育むことができます。地域参画をキーワードにしながら、子どもたちが課題意識を持てる活動を見つけ、意欲的に取り組むことを大事にしています。地域とともに生きることを学びの中核に据えて、学びをより確かなものにしていこうと考えています。

全校や複数学年でともに学ぶ

小学生と中学生が同じ屋根の下で学校生活を送っています。小学生は中学生に学習の成果を見てもらったり、中学生は小中全校行事の企画をしたりして、安曇校一体として活動しています。子どもたちが活動の中で、人との関わりの楽しさなどを、自然に学んでいきます。



「生徒会が企画した活動によって、学年を越えて生徒の絆が深まるのを見ると、とてもうれしいです。学年は違いますが、あえて平等に接することを心がけています」



生徒会会長 (中学2年)
おおたなごみ
太田和弥さん

「今後は、安曇地区の自然を学べるような屋外での活動を、生徒会としても企画できたらいいと思います」



生徒会副会長 (中学2年)
おおのりょうた
大野涼太さん

豊かな自然に学ぶ

小学校1年生から中学校3年生まで上高地を教材として、学年別にさまざまな学習を行っています。各学年、年に数回上高地を訪れ、その道のプロを講師として、自然観察や登山(岳沢や奥穂高岳)



岳)、職場体験、清掃活動を行っています。事前学習から報告会まで、お世話になった方々とともに学習し、成果を共有し合うことで、故郷を大切に思う気持ちを育て、地域とより密着した活動を目指しています。

「学区に上高地や槍穂高連峰を有する本校では、環境教育として『上高地学習』を行っています。年に数回上高地を訪れ、豊かな自然、梓川の水、そしてさまざまな人と触れ合いながら、ここ安曇を見返し、他地域にも見方を広げ、考えを深め、発信を続けています」



小学校5年生の担任
横山先生

学校見学・授業参観・体験入学受け付け中!

随時受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

松本市立安曇小中学校 (☎94-2234 📠94-2235)

公教育の多様化

～子どもにとって魅力的な学校環境の整備～

一人ひとり異なる個性や特性があるように、個に応じて合う学びの環境もそれぞれ違います。大人数の中で賑やかな環境を求める子もいれば、少人数の中で落ち着いた環境を求める子もいます。

これからの義務教育においては、児童生徒の個性を尊重したきめ細かな学びの支援を行うた

め、画一的な学びではなく、特色ある学校づくりを進めることが重要です。

そこで、松本市では、まず、小規模校の安曇小中学校に特認校制度を導入し、従来の通学区域を越え市内どこからでも通学できるようにしました。

多様化への
第一歩

安曇小中学校

小規模特認校制度の導入



特認校制度とは

学校選択制の1つで、従来の通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく、市内のどこからでも入学・転入ができる制度です。

4月から安曇小中学校で導入

安曇地区の東部エリアが通学区の同校は、児童生徒数が40人弱。恵まれた自然を生かした特色ある教育や、小人数の特色を生かした落ち着いた学習環境を求め、同校で学校生活を送りたいという就学希望が増えていることから、特認校制度の導入が決まりました。

同校では、少人数ならではのメリットを生かし、学年が異なる多様な児童生徒が豊かに関わる学び合いが特徴です。



多様な学びのリーディングスクール

松本市では、子どもにとって魅力的な学校を目指し、各校で独自の特色ある学校づくりが始まっています。例えば、多くの人やモノとの関わりや体験により学びを深めたり、子どもの興味や関心に沿って学びの軸を決め、発達段階に応じた学びの接続カリキュラム開発に取り組んだりしている小学校や、中高大連携により校種間を越えた学びの道すじを探っている中学校な

どがあります。

今後は、さらに異年齢集団による学び合いや多様な児童生徒が豊かに関わり合う学び、また、体験を重視した主体的・対話的で深い学びなど、一人ひとりの可能性を引き出すことができるよう、安曇小中学校だけでなく、市街地の学校や大規模校においても、さまざまな形で実践を重ね、多様な学びのあり方を探っていきます。